

---

# 日を見る

鎌堂成久

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

日を見る

### 【Nコード】

N6240K

### 【作者名】

鎌堂成久

### 【あらすじ】

閉鎖された空間にいる「私」。

私はこの世界から出て行くことはできるのだろうか。

冷たい指先から流れ落ちたのは、欲求だった。欲求を二つに分けると生理的欲求と社会的欲求がある。私のこの指先から流れ出たそれは、言ってしまうえば後者だった。前者はもう満たされ尽くしている。

私の今の状況をお伝えしよう。何もかも不自由なく暮らせる閉鎖空間に『人間』としてただ一人いる。食欲から性欲まで、すべて満たせる、いわば夢の空間。しかし、ここは無機的で、愛など感じられない。地位も何もないからただ怠惰に落ちても誰も咎めはしない。そもそも、自分以外の人間というのを見たことがない。すべての知識は本から手に入れたものだ。本だけが私に真実を教えてくれるツールなのである。鏡はあるから私に私という『人間』の姿を教授した。文字は本の字を真似た。挿入されていた誰かが書いた文字の写真は美しくないと感じたからだ。そして、その美しさの感覚はこの閉鎖されたまっさらな整然とした空間から来ていると思われる。そんな私は、これまでこの生活に満足していた。

しかし、この空間にあった、すべての本を読みつくした今、私は自分が縛られていることに気が付いた。初めて、この空間が窮屈だと感じた。本で読むではいたが、これが窮屈なのかと感じると、ふと誰かに会いたくなつた。本はすべてそろっていた。ここで起こる物理現象はすべて書かれていたし、私は理解し、頭の中に叩き込んであった。だから私は、考えた。この壁を壊せば、外に出られるのではないかと。まずは、拳をぶつけた。もちろんびくともしないでは足。壁に垂直に蹴りを放つたものだから、壁から返る力は私が放った力と同等で、ジーンとした痛みを感じる。これでは無理だと感じたから、本に書いてあったように自分より大きいものを使って壊そうと思った。私はもてる限りの力で本を入れたまま本棚を壁にぶつけた。すると、聞いたこともない音を出して壁がへこんだ。こ

れは成功する予兆だ、そう思った。私は嬉しくて、もう一度頑張ってみた。よりへこむ。私は寝食を忘れて壁を打った。へこむばかりで、先は見えない。どうしてだ、どうしてだ、と考えて、私は包丁を持ち出してきた。壁に刺してみる。刺さった。これまで硬いものだとずっと思っていたものは脆くも刃物をその身体に通したのだった。私はシヨックだった。それでいてまた希望を持った。

人に出会える。

ただそれだけだった。

壁の先は真つ暗だった。私は思った。これが夜か、と。そのときに私はうまれてはじめて暗闇を見た。何かに包まれるその感覚は心地良かった。ここに人がいるんだろうか、そう思うと私はすぐに意識を失った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6240k/>

---

日を見る

2010年10月21日22時41分発行